【事業実績】

Ⅰ.「まちの学芸員」事業：（1）募集説明会、（2）企画参画・自主企画活動

「まちの学芸員」イメージ図

博物館と市民の双方向的関係構築において人的基盤となる登録制の市民参画の仕組みを新たに立ち上げた。事業や催事の企画・運営などをとおして、楽しみながら博物館と「共に創り、協力して学ぶ」主体として位置付けた。年齢・資格・地域などの制限はなく、誰もが登録可能。事業期間をとおして計 30 名が登録。事業後もこの仕組みを継続していくことが決まった。

（1）募集説明会

意外に好評だった参加証とシール

博物館内だけでなく、周辺地域のイベントスペースや関係構築してきた公民館などを会場とし、共創協学モデルに基づく基盤整備事業紹介および「まちの学芸員」の募集の説明会を開催した。学内外の専門家による話題提供とデジタルツールを体験するミニワークを盛り込み、市民の興味関心を喚起すると同時に、デジタルツールに触れる内容とした。

実施回数：4 回（2023 年 10/7、10/23、11/6、12/10）／ 参加者数：のべ 99 人

参加者の声（アンケートより抜粋）：これから面白そうなことが起きると思った（50 代）／もっとデジタルアーカイブについて学びたい（20 代）／地域を盛り上げたい（60 代）

募集説明会のワンシーン

（2）企画参画・自主企画活動

「まちの学芸員」は、企画・準備・運営に参画し、10 月から月４～５日間のペースで活動。自然物アーカイブの技術検証のための樹木3D スキャンニングにも挑戦した。期間末に自主企画「緑のねっこワーク II」を実施。スマートフォンアプリによるショート動画制作を学び、プログラムに盛り込んだ。

自主企画開催日：2024 年 2 月 10 日（リハーサル 2 月 4 日） ／参加総数：計 12 名

「まちの学芸員」の声（抜粋）：学びたい意欲が強くなりました（50 代）／他者と自分との視点の違いも楽しみました（50 代）／まちづくりへの関心が高まりました（60 代）／町に愛着が湧きました（20 代）

「まちの学芸員」自主企画

Ⅱ．共創協学事業

博物館と市民相互の協働関係を生み出すための「共に創り協力して学ぶ」柱となる事業。
地域に人々にとっても関心の高い話題や課題をテーマとして取り上げた。

（1）人とまちの記憶：「博物館ラジオ」（音声アーカイブ）

ラジオ編集会議（第一回目）

「まちの学芸員」説明会のさい組み込んだ専門家による話題提供（「まち」と「ミュージアム」が交差する内容）を素材として「まちの学芸員」とともに編集を行った。

制作本数：8 本（4テーマ毎に前・後編）

内容：「学術標本の保存・デジタル化」話題提供：伊藤　泰弘　氏、「まちの学芸員　文化人類学の視点から」話題提供：飯嶋　秀治　氏、「まちのカケラ-大都市のローカリティ」話題提供：本間　友　氏、「マチの個性としての歴史文化遺産」話題提供：箕浦　永子　氏

（2）まちの文化資源：「まち de ミュージアム」（ワークショップ、デジタル共有）

慶應義塾大学の採択事業で実施されたワークショップ手法を短縮・改変して横展開。参加者がまちを歩き、気になる「まちのカケラ」を撮影し、Instagram で共有。共有された写真を会場で出力し、参加者各自がコラージュしたうえで、そこから各々が感じとる「ナラティブ」（物語）を書き出した。他者の作品から読み取った「ナラティブ」も相互に書き出し全体共有。まちへの「まなざし」を互いに交換することにより、多様な価値観に基づいたまちの文化資源への気づきや学びを得た。

実施日：2023 年 11 月 18 日（土）10：00～17：00

会場：九州大学総合研究博物館とその近隣地域 ／ 一般参加者数：7 名

参加者の声（アンケートより抜粋）：まち歩きも楽しかったが、戻ってからのワークが特におもしろかった（60 代）／おもしろいものがまだまだたくさんあるとわかり楽しかった（50 代）／図書館や Web で調べものをする時間があったら、より理解が深まりそう（20 代）

散策時につけた参加者識別バッチ（左）と、「まち de ミュージアム」開催の様子

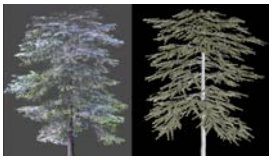
（3）まちの課題：「緑のねっこワーク」（ワークショップ、3D）

地域で関心の高いまちの「緑」をテーマとした。コンテンツ利用や樹木アーカイブのための3D 技術について、事業者や専門家を交えた課題の洗い出しと比較検討、敷地内に植栽されていた樹木の点群データからの3D モデル化などを実施。また、「まち de ミュージアム」の“ナラティブからまなざしを共有する”手法を組み込んだワークショップにより、どのようなまちの緑や植栽あるいは公園などのあり方が、実際の日々の幸せや満足につながるのかをみつめ直した。

ワークショップ実施日：2023 年 12 月 17 日（日）10：00～17：00
会場：九州大学総合研究博物館とその敷地内 ／ 一般参加者数：8 名

参加者の声（アンケートより抜粋）：知識を得て実際にレガシーに触れテーマについて活動体験できた（50 代）／他の方の写真やエピソードを使わせて頂き楽しく参加できた（60 代）／参加者が同じテーマを真剣に考えていたので、世代なども気にせず自然に話せる空気感があった（50 代）

緑のねっこワーク開催の様子



左：点群データ、右：3D モデル

高精度のスキャニングとの比較のため
「まちの学芸員」さんたちも3D スキャニングに挑戦

III. その他

（1）運営委員会開催

開始時（2023 年 9 月 15 日）と終了時（2024 年 2 月 19 日）に開催。市民を巻き込むことに対する委員からの意見を事業に反映した。終了時は、より博物館との関わりのある内容とすることへの意見が出されており、今後の改善につなげていく。

実行委員会（9 月開催時）

（2）地域との連携体制の構築

福岡市東区役所・県立図書館、近隣公民館・中学校、他博物館等を訪問、事業説明や進捗をはじめ意見交換を行った。

（3）テキスト作成：『あなたもできる「まちの学芸員」 活動チャレンジシリーズ デジタルツール編』

「まちの学芸員」が本事業の活動中に使用したデジタルツールの使い方を解説し、活用方法なども紹介したテキスト。「まちの学芸員」さんが、高齢の方などにも使いやすいか内容を確認。他の事業や団体でも活用いただけることを想定している。

主な内容：「まちの学芸員」紹介、デジタルツール活用上のメリットや注意点、アプリ紹介：Instagram（写真共有）・CapCut（動画作成）など
作成数：200 部 ／ **仕様**：B5判 20P フルカラー

（4）レポート作成：『まちとつながる 地域共創協学ミュージアム 2023』

本事業の詳細を俯瞰・記録した報告書。テキスト同様、内容のわかり易さや読み易さを「まちの学芸員」メンバーに確認いただき、高齢の方などにも読み易い仕様とした。

主な内容：図解「まちの学芸員」、活動記録、募集説明会、各事業記録、アンケート結果、コラム1件、トピックス3件ほか

作成数：200 部 ／ **仕様**： B5判 32P フルカラー

左：テキスト、右：レポート

アンケート結果事例：説明会への参加動機

（5）その他：3事業クロストーク

東京（慶應大）・山形（山形大）の採択主担当者らとともに、「まちとミュージアム」と題した研究会を開催（JMMA 九州支部会と合同開催）。先進する他事業の事例を参照することにより、本事業の特色と改善を要する点などを知ることができた。